

令和5年1月定例会会議録

(令和5年1月26日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 1 月定例会会議録

- 【開催日】 令和5年1月26日（木）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛭 教育委員
澤村 互寛 教育委員
- 【出席職員】 中 勇二 教育部長
橋口 幸雄 教育部総括審議員兼次長
松川 由美 教育部次長
田中 智樹 教育部理事兼教育政策課長
田北 佳一郎 学校教育課長
稲本 健一 教育施設課長
高崎 博文 生涯学習課長
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長
松村 哲治 教育部理事兼博物館未来の森ミュージアム副館長
長船 征洋 教育政策課長補佐
中松 大輔 教育政策課主幹兼学校給食係長
田中 慶文 教育政策課主事
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長
浦本 美代子 教育政策課参事

（審議事項）

<議案案件>

- ① 八市教委議第1号 八代市立学校における独立行政法人日本スポーツセンター共済掛金の徴収に関する規則の一部改正について
- ② 八市教委議第2号 八代市教育委員会文書規程の一部改正について

<報告案件>

- ① 報告第1号 令和4年度第3回八代市総合教育会議の協議案件について
- ② 報告第2号 臨時代理報告・八代市教育委員会職員の社会教育主事発令について
- ③ 報告第3号 八代市学校給食施設基本計画について

1. 開会 (午前10時00分 開会)
2. 会議録の承認 令和4年10月定例会、11月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告
4. 議題

〈八市教委議第1号〉 八代市立学校における独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の徴収に関する規則の一部改正について

田北学校教育課長 独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の「保護者負担額の定め方」において、一般・要保護者ともに保護者負担額を明記するものである。

質問等なし

【議案第1号 承認】

〈八市教委議第2号〉 八代市教育委員会文書規程の一部改正について

田中教育部理事兼教育政策課長 個人情報保護に関する法律（平成15年法律第57号）が改正され、令和5年4月1日から同法の直接適用を受けることになり、八代市個人情報保護条例（平成17年八代市条例第24号）が廃止されることから、関係する規定の改正を行うとともに、必要な字句の見直しを行うために所要の改正を行うものである。

質問等なし

【議案第2号 承認】

〈報告第1号〉 令和4年度第3回八代市総合教育会議の協議案件について

田中理事兼教育政策課長 2月20日開催予定の令和4年度第3回八代市総合教育会議の協議案件について、資料により説明

- 中学校部活動の段階的な地域移行について
- スタディサプリのデモについて

奥村教育委員

今回、委員の意向を提出するにあたり、参考にいただいた過去の議題の中から、少し前に審議されたがその後審議されていない「働き方改革」について提出したところである。過去に一度しか審議されていないものである。平成29年の中間整理が出された年だったと思う。平成30年頃に本答申が出ているが、その後審議がされていないというのが提案の理由である。また、学校訪問の際に、時を経るにつれて、働き方改革により〇〇したという文言を聞くようになった。働き方改革でいい意味で学校が守られたり、制約されたりというのがあるのではないかと感じていた。働き方改革は現状どのように機能しているのかを聞いてみたいと思ったのが2点目の理由である。働き方改革という言葉の影響力はとても大きいと思う。若い先生だけでなくベテランの先生も身をよじるような実態がある中で、市長も交えて意見交換ができればよいと思ったところであった。ただ、これを審議するためには、学校や教職員の意見が必要ということで、手間をかけると申し訳ないと思った。実状を知るには、県への定例報告の範囲内で働き方改革を想起できるものがあれば、そういったものを活用してほしい。今回タイミングを見て審議を延期したということであれば、学校現場との協調が取れた中で、働き方改革についてのデータや定例報告からのデータ等によりぜひ取り上げていただきたい。働き方改革についての先生方の生の声を知り、協議をしたいと思う。

今回、委員意向調査結果を見て、ほかの教育委員の方々が今の八代の教育の現状のどのようなことに関心を持っておられるのかを知ることができて大変良かったと思う。今後の審議をよろしくお願いしたい。

早田教育委員

委員意向調査結果を見ながら、なぜ今回の協議案件の2件が選ばれたのかというのが率直な意見である。教育委員の方々が感じている八代の現状や、過去に審議されたものについての進捗状況を確認するために提案したものであるのに、却下されたのはなぜかと感じる。市長を交えて協議ができる貴重な場で、スタディサプリのデモをする必要があるのかと感じたところである。

渡邊教育委員

私が一番協議したかった議案はあえて提案しなかった。学校規模の適正化についてであるが、まだ時期が早いとも思ったし、いきなり総合教育会議に提案するのも適当ではないと思った。第一次の計画からかなりの年月が経っており、中長期的に児童数の減少の推移が予測されるなかで、学校規模の適正化に

についてはしっかり検討する時期に来ていると思う。まずは教育委員会で協議すべきと考え提案しなかった。

中学校部活動の地域移行については、4年前に小学校部活動の地域移行がなされているので、現在の小学校の社会体育の状況や成果、課題等について、スポーツ振興課から報告があると参考になるのではないかと思う。

澤村教育委員

中学校部活動の段階的な地域移行については、大変興味がある。教員にとって部活動の指導は、自分の時間や家庭を犠牲にすることになり負担が大きいと思う。一方で、小学校では部活動の地域移行によりスポーツ等を経験せずに過ごしている子供もいるのではないかと思う。部活動で子供が成長するなどのメリットもあるため、課題もあると思う。教員の働き方改革や子供の心身の豊かな成長にも関係することなので、教員にも子供にもメリットとなるよう市長とも真剣に協議し、良い方向性が見つかるとよいと思う。

奥村教育委員

スタディサプリをテレビのCMで見ることがある。学校で導入しているスタディサプリは、学校教育、授業との活用に特化したものかと思っていたが、テレビで見るスタディサプリと同様のものなのか。

また、デモをするにあたり、今後の費用面等の課題にも関心を持つことを目的としているということであるが、費用面については危機感を持っており、十分関心を持っているつもりである。今のICT教育の目標が、スタディサプリの活用、活性化や学校情報化優良認定であるのか。これは手段であると思う。

ICT教育の究極の目標は、抽象的であるが、子供たちの課題解決的、問題解決的な学び、主体的で対話的な学びであり、これに近づくために授業での活用が中心だったと思う。スタディサプリの説明では、宿題を深めてできるとあり、授業での活用が見えない。タブレットなどの機器が子供の思考力を活性化させるために、授業のなかでどう活用されているか、先生方へのサポートができているかなども知りたいと思う。

北岡教育長

スタディサプリについては、授業の中でどんどん使えばよいというものではないと思っている。いろんな段階にあわせて学習できるので、その子に応じた個別最適な学びという点ではとても有効に使うことができると思う。予算を使って導入しているので、スタディサプリとはどのようなものなのかを市長にも見ていただきたいと考えている。

中教育部長

中学校部活動に関しては、国の方針が示されたところであるので、遅滞なく取り組んでいきたいと思う。本市においては、スポーツ、文化については市長部局が所管しており、連携が重要なため今回の議題に挙げたところである。そもそも働き方改革の一環として打ち出された項目であり、働き方改革につながる議論もできるのではないかと思う。また、受け皿として、地域との連携が言われているため、この点についても議論ができるのではないかと考えている。

渡邊委員からあった学校規模適正化など、喫緊の課題もあるので、次回以降の総合教育会議で議論ができるように、まずは教育委員会内でしっかり準備をし、市長部局との議論に臨めるように準備を進めていきたいと思う。

防災教育も市長部局の連携が必要となる。現在の復旧復興プランの中では、具体的に煮詰まっていない状況であるため、しっかり煮詰めてから議論ができるようにしたい。

〈報告第2号〉 臨時代理報告・八代市教育委員会職員の社会教育主事発令について

田中理事兼教育政策課長

臨時代理報告・八代市教育委員会職員の社会教育主事発令について、資料により説明

奥村教育委員

本市には社会教育主事は何名いるのか。

高崎生涯学習課長

社会教育主事の発令がある職員は2名である。資格保持者は1名いる。

〈報告第3号〉 八代市学校給食施設基本計画について

田中教育部理事兼教育政策課長

八代市学校給食施設基本計画について、資料により説明

早田教育委員

児童生徒数の予測について、減りすぎではないかと感じた。国は少子化対策に歯止めをかけようとしており、国の政策としても地域創生を推し、八代市においても人口を維持できないかと対応している中で、これだけ児童生徒が減少するという予測に違和感がある。現状維持または児童生徒が増加した場合はどのように対応するのか。現在の計画では8,500食の調理能力であるが、これでは、現在の児童生徒数分は対応できず、令

和12年度の予測の児童生徒数でも対応できない。また、建設場所について、2時間以内の喫食が条件であるが、坂本地区に届くまでにどのくらい時間がかかるのか。

田中教育部理事兼教育政策課長

児童生徒数の予測については、本市において、平成18年から令和4年までに生まれた0歳児の数を捉えた推計値を用いている。本市においては様々な子育てや人口減少についての施策を行っており、人口ビジョンがある。これにおいては、令和17年は令和3年の児童生徒数より約700人増加するという横ばいより少し上昇した人口ビジョンのグラフが示されている。これは、様々な施策を行う中で、この人口を確保していきたいというビジョンである。今回の考え方としては、より現実的に捉えた数字を示したところである。まずは南部エリアに6,000食の調理能力のある施設を建設し、次に計画をする北部エリアで2,500食を調理し、合計8,500食の調理能力となる。児童生徒数の増減があれば、北部エリアで調整をしたいと考えている。また、2時間喫食のルールを考えたとき、子供たちに提供する30分前に校長先生の検食があり、積み込みの時間を考慮すると、配送にかけられる時間は1時間程である。そこを市内の広域に40校ある小・中学校に配送するにはどうすべきか検討した。単純に車両を増やすのも可能であるが、そうすると積み込みに時間がかかり、効果的な配送ができないため、現在16台の車両で配送することで考えている。坂本町の八竜小学校、坂本中学校においては、南部センターから約30分、約15キロを想定しており、十分間に合うと考える。

早田教育委員

復旧工事については考えているのか。

田中教育部理事兼教育政策課長

どの程度の工事が残っているかにもよるが、10分加算しても40分で配送できるので問題ないと思う。

中松教育政策課主幹兼学校給食係長

坂本方面への配送は八竜小学校、坂本中学校だけであるため、工事の影響で10分伸びたとしても2時間喫食は可能と考える。

早田教育委員

せっかく市として大規模な施設を建設されるので、防災の面からお話ししたい。八代市は広い範囲で津波が想定されているが、津波に対応した避難ビルが人口に対して少ない。東日本の震災を考えると、早いところで津波の到達まで20分であった。八代の津波は、日奈久断層の八代海の区間が動いたときを

想定されており、かなり震源地と陸地が近いため数分で到達すると言われている。津波注意報、警報が、地震発生から3分以内に出るが、津波注意報、警報が出る前に津波が到達する可能性もあると熊本地方気象台から聞いている。数分で到達できる所に避難ビルが必要であるが、八代市にはできていない状況である。鏡町の小学生向けに津波の話をしたとき、「どこに避難したらいいんですか」と聞かれたが、時間内に避難できる場所を答えることができなかった。防災の話をしてもしようもないこともあるが、避難の選択肢の一つとして、この学校給食センターが一時的に避難できる場所に活用できたらよいのではないかと思う。

田中教育部理事兼教育政策課長

避難場所については、市の防災計画とも整合を図っていくべきところではあるが、一時的な避難という面で、垂直避難ができるような考慮はしたいと思う。

奥村教育委員

給食センターの整備については、数年前から提案されており喫緊の課題であるということは実感してきたところである。どのくらいで配送できるか、子供たちが給食を楽しく食べる時間と後片づけの時間の確保を考慮し、北部、南部、東陽・泉地区の3地点を選ばれたことについては安心している。東陽給食センターについて、利用不可となった段階で統合ということであれば、東陽給食センターはいずれなくなり、新北部センターからの配送になると思うが、配送時間はどのくらいかかるのか。

田中教育部理事兼教育政策課長

東陽給食センターについては、築年数が22年経過しているところである。北部センターへの統合も検討したが、配送時間等の課題があった。東陽地区に1台、泉地区に1台の配送車があれば、対応できない距離ではないと判断している。現在の状況では、東陽給食センターについては、これまでどおり運営し、北部センターに着手するときの状況により、改修して引き続き使用したほうが子供たちのためによいのか、費用面など勘案して判断したいと考える。現在のところ継続運営をすることを考えている。

奥村教育委員

北部センターに着手する時点で、統合するのか、改修して東陽給食センターを残すのかを十分検討されると理解してよいのか。

田中教育部理事兼教育政策課長

そのとおりである。児童生徒数なども考慮する。

奥村教育委員

数年前に話していたから当然給食センターはなくなるということでは、地域の人にとっては納得がいかないだろうし、子供たちにとって安心して楽しく過ごせる環境でないと、若い親御さんが地域に家を建て、住み続けようと思わないのではないか。また、八代市は八つの地域が合併してできているが、各地域がいたずらに不便だからという理由で消滅していくのではなく、何らかの手を加えることで、地域の特性に私たちが還元を受けながら住みよい地域であるためにも、東陽給食センターの統合については気になったところである。

渡邊教育委員

スケジュールどおりに進めるためには、土地の取得が重要であると思うが、見通しとしては間に合うように取得できそうか。

田中教育部理事兼教育政策課長

具体的な場所については、現在選定中である。経費的な面を考慮すると市有地を中心に条件を満たすところを優先したいと考える。北部については、鏡支所を中心に検討しており、鏡支所の土地も候補の一つである。南部については、この規模での市有地はない状況である。南部給食センターはあるが、給食センターを止めて建設することはできないため、民有地購入を視野に入れたところで検討している。農業地域であるため様々な手続きが考えられる。スムーズに進むように手配していきたい。

渡邊教育委員

実際に稼働し始めると、調理数が多くなるほど様々な課題があるだろうと想定する。子供たちの立場からすると、温かい給食を食べたいだろうと思う。

また、給食センターが統合されることで、職員数はどのくらい増減するだろうか。学校栄養士の配置の問題もあると思う。現在働いている職員の受け皿など、職員の問題の見通しも明るくしていただきたい。

奥村教育委員

若い親御さんが子供を小学校へ入学させるとき、いろいろな情報を収集されると思う。共働き世帯が多い中で、少しでも便利で子供を育てやすい条件が整っていないと、地域で子育てをしようとする選択が難しくなってくると思う。その点で環境整備は重要であると思う。また、調理員の確保が難しいというこ

とは以前から聞いているが、なぜ確保が難しいかと考えたとき、仕事が厳しいからということだろうか。仕事が厳しくても給料がよい、待遇がよいということであれば頑張ってみようという職員もいると思うが、職員の働き方、待遇関係の配慮はあるのだろうか。昔の話になるが、子供たちに給食センターを説明した際に、調理場は温度が40度近くなる中で調理をされており、残さず食べようと指導したのを覚えている。

給食センターの整備において、人への配慮という点で話題になっていることがあれば伺いたい。

田中教育部理事兼教育政策課長

環境整備について、現行の施設では、夏は高温多湿であり、冬は寒く快適な環境でないことは承知している。施設を整備するには時間がかかるので、合わせて現行の施設の環境整備についても、可能な限り対応できるところは対応したいと考える。調理員については、市の職員であり、不足する分は会計年度任用職員での雇用をしている。一部では外部の民間業者へ業務委託をしており、多くの学校給食センターは学校給食会に委託しているところである。調理員は長時間の立ち仕事できついところがある。施設整備と並行して、調理員の処遇については可能な限り改善していきたいと考える。

奥村教育委員

よろしくお願ひしたい。

渡邊教育委員

県内に6,000食以上の調理能力がある給食センターはあるか。

田中教育部理事兼教育政策課長

県内にはない。宇城市給食センターで4,500食ほどであり、統合される予定であるので余力はあると思うが、本市の新給食センターが最大になる可能性がある。

奥村教育委員

県内でもまれに見る大規模の給食センターということであるが、それを担うにはたくさんの設備、調理員が必要になると思う。今でも1,000食を超える給食を調理されるが、限られた時間で多くの給食を調理するにも関わらず、食材の型崩れもなく、給食を出していただいていることに大変感謝する。現在の給食は以前と違って栄養補給ではなく、一日の重要な時間を過ごすので、子供たちが給食を楽しく食べる姿を想像しながら調理していただけるような環境整備をお願いしたい。

北岡教育長

宇城市の給食センターを見学したが、衛生的、機能的であり、

しっかり考えられた良い施設であると感じた。また以前、久留米市の大規模な施設も見学したが、やはりしっかり考えられた施設であった。県外には本市より規模の大きな施設があるので、参考にして環境を整え、職員の待遇についても考えていく必要があると思う。給食センターだけでできることではないので、市の財政部局ともしっかり話をしていきたい。

5. 連絡事項

教育政策課 市長と八竜小6年生の昼食会 (1/30)
氷川町及び八代市中学校組合氷川中学校の状況について
総合教育会議及び2月定例会 (2/20)
教育行政先進地視察 (2/21～22)

学校教育課 卒業式について
中学校 (3/3) 幼稚園 (3/22) 小学校 (3/23)

生涯学習課 みんなの家起工式 (2/12)

教育サポートセンター 年頭研修会 (1/5～1/13)
くま川教室開級式 (1/12)
教育論文教育実践記録審査員委嘱状交付 (1/13)
トワイライトセミナー最終日 (1/26)
ニューティーチャーミーティング (2/3)

博物館 冬季特別展覧会 (2/3～)

事務局 2月定例会日程確認 (2/20 15:00～ 総合教育会議終了後)
教育行政先進地視察 (2/21～22)

6. 会議録署名委員の指名

早田委員・澤村委員

7. 閉会

(午前11時55分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
